

## 令和6年度 木津中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等（中学生チャレンジテスト（Z牛王））

### 【成果】

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

### 1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

#### 2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようになる。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

### 3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るために、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

### 4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公私立学校が児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

# 令和6年度 木津中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

## 1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3年	学校	52	53	46	7.9	16.6
	大阪市	—	56	51	4.1	12.5
4月18日	全国	—	58.1	52.5	3.9	11.3

## 2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	53	61.0	49.0	43.3	49.9	55.0	7.3	5.5	19.6	6.4	8.7
	大阪市	—	65.4	50.2	48.8	52.1	54.0	4.9	4.7	14.3	4.1	6.5
9月3日	大阪府	—	65.2	50.4	49.1	52.3	53.6	5.3	5.0	14.8	4.4	6.9
2年	学校	45	50.8	40.3	37.0	40.9	51.8	19.3	12.4	17.6	10.5	10.9
	大阪市	—	66.1	49.9	51.4	47.0	54.6	8.4	4.6	8.2	5.7	7.0
1月9日	大阪府	—	65.5	49.5	50.7	45.9	54.0	9.3	5.2	9.5	6.6	7.9
1年	学校	28	46.6	45.5	38.5	46.6	54.4	14.7	9.3	15.7	10.2	10.4
	大阪市	—	59.0	53.7	50.5	55.6	62.1	8.3	5.5	7.4	3.8	4.9
1月9日	大阪府	—	58.5	—	49.8	—	61.5	9.4	—	8.8	—	5.8

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は物理的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はA問題を選択

※ 3年生の理科はC問題を選択

## 3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】		聞くこと 【リスニング】		書くこと 【ライティング】		話すこと 【スピーキング】	
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	33	107.3	—	122.2	—	160.8	—	116.7	—
10月15日	大阪市	—	105.7	—	104.6	—	149.6	—	102.1	—

## 4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力 (kg)	上体 起こし (数)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20m シャトルラン (回)	持久走 男子1500m 女子1000m (秒)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
			31								
2年 男子	学校	33.44	28.88	40.19	47.61	66.59		8.24	182.88	19.12	40.85
	大阪市	28.38	26.42	42.74	51.50	79.76		8.08	194.64	19.84	41.10
	全国	28.95	25.94	44.47	51.51	78.98		7.99	197.18	20.57	41.86
2年 女子	学校	23.18	19.00	47.43	43.17	34.67		8.85	166.50	10.91	42.80
	大阪市	22.99	22.21	45.64	45.86	52.98		9.01	167.01	12.04	47.51
	全国	23.18	21.56	46.47	45.65	50.67		8.96	166.32	12.40	47.37

## 令和6年度 木津中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

### 調査結果から

#### ○中学生チャレンジテスト(2年生)

##### 【成果】

・大阪府と比較して、5教科の平均点における対府比は0.83(前年度0.81)となり2p改善した。教科においては、理科は8p・英語は6p改善した。

<国語>どの項目においても大阪府の平均を超えることはなかったが、ほとんどの生徒に、最後まで諦めず問題を解く前向きな姿勢がみられるようになっている。

<社会>府平均を上回ったの全体の40%程度いた。資料活用問題を「無回答」にしている生徒の数が少なかった。

<数学>対府比の割合が0.73であり昨年度(0.71)より2p改善した。

<理科>平均点は大阪府45.9点に対して本校平は40.9点と下回ったが、対府比は改善した。

<英語>読むことに関しては府平均を4p上回った。

##### 【課題】

<国語>漢字や言葉の知識などの基礎学力を伸ばすために、読解力の向上に繋げていく。

<社会>府平均7割未満が半数近くいた。

<数学>府平均7割未満の生徒の割合が増加した。

<理科>知識問題の得点率が低かった。

<英語>聞くことに関しては府平均を下回った。

#### ○中学生チャレンジテスト(1年生)・チャレンジテストPlus

・大阪府と比較して、3教科の平均点における対府比は0.82となった。無回答率も府(市)平均値を下回った。

##### 【成果】

<国語>府平均を下回ったが、問題別で大阪府の平均を超えるものもあり、特に接続詞の問題は9割を超える正答率であった。

<数学>無回答率が0%の項目もあり、問題を解く意欲が現れる結果であった。

<英語>対府比は0.88であったが、満点となった生徒も複数いた。問題別では正答率が府平均を超える問題も見られた。

<社会>対市比は0.85であり、基礎活用の正答率は50%を超えていた

<理科>対市比は0.84であり、基礎活用や知識・技能の正答率は50%を超えていた

##### 【課題】

<国語>無回答率が高い状態であること。

<数学>大阪府の平均より大幅に下回っているため、基礎・基本の定着が必要である。

<英語>標準偏差が平均より大きくなっていることから、英語が得意な生徒とそうでない生徒に別れていることがわかる。

<社会>資料の活用など、基礎を踏まえた応用力の育成が必要である。

<理科>知識を踏まえたうえで、発表などの表現できる場面を多く設定したい。

#### 【今後に向けて】

・習熟度別少人数授業をはじめ、補充学習・放課後学習会・中3集中学習会や個別学習指導・分割授業等、個々の状況に応じたきめ細かい指導をさらに継続していく。

・朝食の喫食率が75%前後でとどまっている。改めて学習の基礎となる食の大切さを家庭と連携して啓発していきたい。

・互いの人権を尊重し、主体的、創造的に活動できる生徒の育成を目指しており、その成果が表れつつある。今後も更に学力向上につながる自己肯定感や自己有用感を高める取り組みを進める。

・体力向上にむけて、課題の部分でもある、敏捷性・全身持久力・巧緻性・瞬発力の要素を取り入れたトレーニングや授業展開を行う。

・小テストを行い、基礎的・基本的な内容に重点を置いて指導を進め、知識・理解の定着を図る。

・教科横断的なカリキュラムや総合的な学習の時間を活用し、普段から様々な種類の文章に触れる機会を作っていく。

・放課後学習や家庭学習につながる宿題等で学習習慣を定着させ、生徒への対策を充実させたい。

令和6年度 木津中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○中学生チャレンジテスト(2年生)

【成果】

・大阪府と比較して、5教科の平均点における対府比は0.83(前年度0.81)となり2p改善した。教科においては、理科は8p・英語は6p改善した。

<国語>どの項目においても大阪府の平均を超えることはなかったが、ほとんどの生徒に、最後まで諦めず問題を解く前向きな姿勢がみられるようになっている。

<社会>府平均を上回った全体の40%程度いた。資料活用問題を「無回答」にしている生徒の数が少なかった。

<数学>対府比の割合が0.73であり昨年度(0.71)より2p改善した。

<理科>平均点は大阪府45.9点に対して本校平は40.9点と下回ったが、対府比は改善した。

<英語>読むことに関しては府平均を4p上回った。

【課題】

<国語>漢字や言葉の知識などの基礎学力を伸ばすために、読解力の向上に繋げていく。

<社会>府平均7割未満が半数近くいた。

<数学>府平均7割未満の生徒の割合が増加した。

<理科>知識問題の得点率が低かった。

<英語>聞くことに関しては府平均を下回った。

○中学生チャレンジテスト(1年生)・チャレンジテストPlus

・大阪府と比較して、3教科の平均点における対府比は0.82となった。無回答率も府(市)平均値を下回った。

【成果】

<国語>府平均を下回ったが、問題別で大阪府の平均を超えるものもあり、特に接続詞の問題は9割を超える正答率であった。

<数学>無回答率が0%の項目もあり、問題を解く意欲が現れる結果であった。

<英語>対府比は0.88であったが、満点となった生徒も複数いた。問題別では正答率が府平均を超える問題も見られた。

<社会>対市比は0.85であり、基礎活用の正答率は50%を超えていた

<理科>対市比は0.84であり、基礎活用や知識・技能の正答率は50%を超えていた

【課題】

<国語>無回答率が高い状態であること。

<数学>大阪府の平均より大幅に下回っているため、基礎・基本の定着が必要である。

<英語>標準偏差が平均より大きくなっていることから、英語が得意な生徒とそうでない生徒に別れていることがわかる。

<社会>資料の活用など、基礎を踏まえた応用力の育成が必要である。

<理科>知識を踏まえたうえで、発表などの表現できる場面を多く設定したい。

【今後に向けて】

・習熟度別少人数授業をはじめ、補充学習・放課後学習会・中3集中学習会や個別学習指導・分割授業等、個々の状況に応じたきめ細かい指導をさらに継続していく。

・朝食の喫食率が75%前後でとどまっている。改めて学習の基礎となる食の大切さを家庭と連携して啓発していきたい。

・互いの人権を尊重し、主体的、創造的に活動できる生徒の育成を目指しており、その成果が表れつつある。今後も更に学力向上につながる自己肯定感や自己有用感を高める取り組みを進める。

・体力向上にむけて、課題の部分でもある、敏捷性・全身持久力・巧緻性・瞬発力の要素を取り入れたトレーニングや授業展開を行う。

・小テストを行い、基礎的・基本的な内容に重点を置いて指導を進め、知識・理解の定着を図る。

・教科横断的なカリキュラムや総合的な学習の時間を活用し、普段から様々な種類の文章に触れる機会を作っていく。

・放課後学習や家庭学習につながる宿題等で学習習慣を定着させ、生徒への対策を充実させたい。

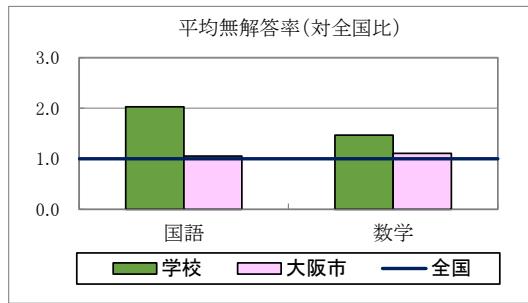
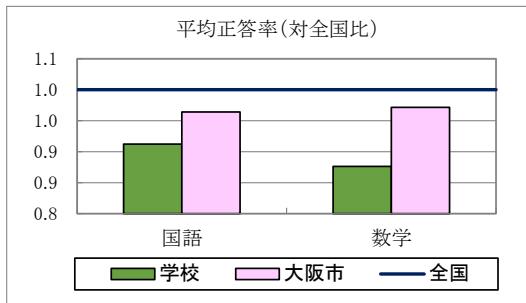
# 令和6年度 木津中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

## 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

### ○中学生アマランバスト(乙年生) 【成績】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	53	46
大阪市	56	51
全国	58.1	52.5

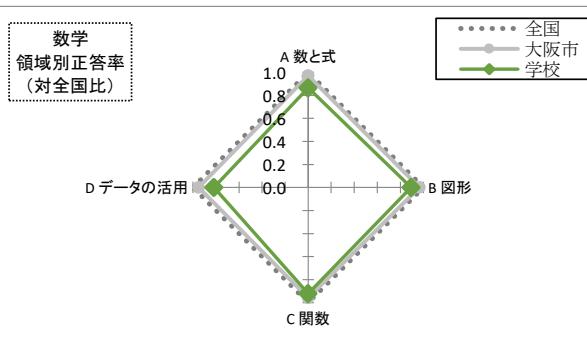
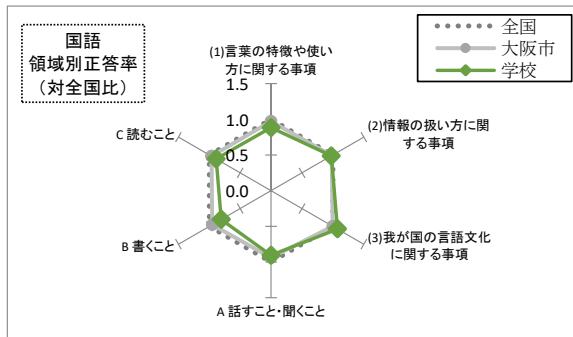
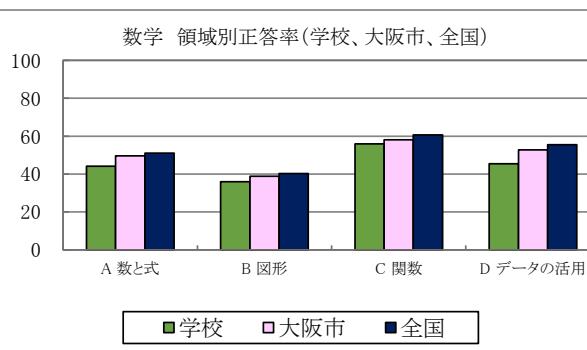
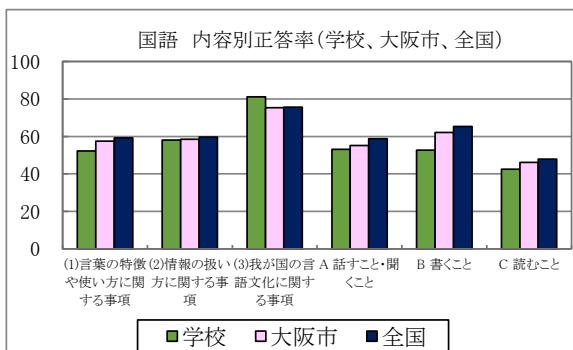
平均無解答率(%)	
国語	数学
7.9	16.6
4.1	12.5
3.9	11.3



### 【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	3	52.3	57.5	59.2
(2)情報の扱い方にに関する事項	2	58.1	58.5	59.6
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	81.1	75.3	75.6
A 話すこと・聞くこと	3	53.2	55.2	58.8
B 書くこと	2	52.7	62.2	65.3
C 読むこと	4	42.6	46.2	47.9

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	44.2	49.6	51.1
B 図形	3	36.0	38.9	40.3
C 関数	4	55.9	58.1	60.7
D データの活用	4	45.4	52.8	55.5



# 令和6年度 木津中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

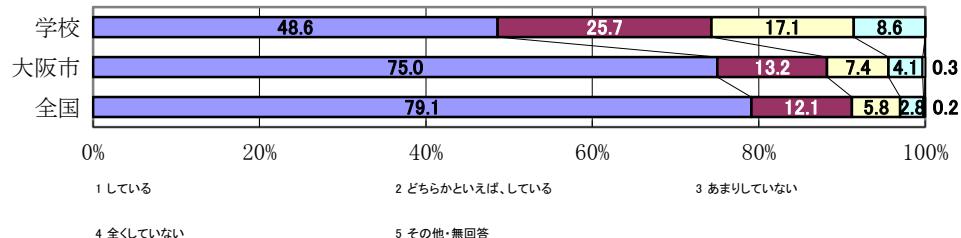
## 生徒質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

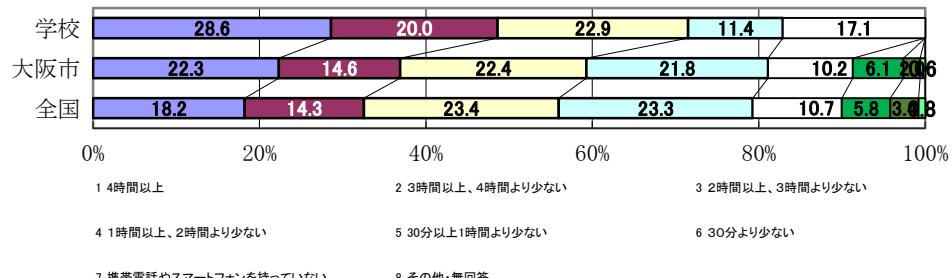
1

朝食を毎日食べていますか



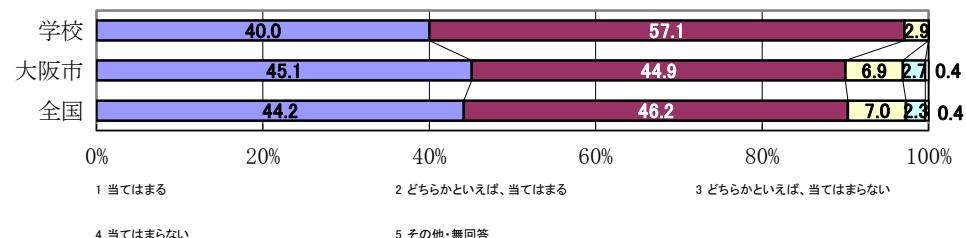
6

普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)



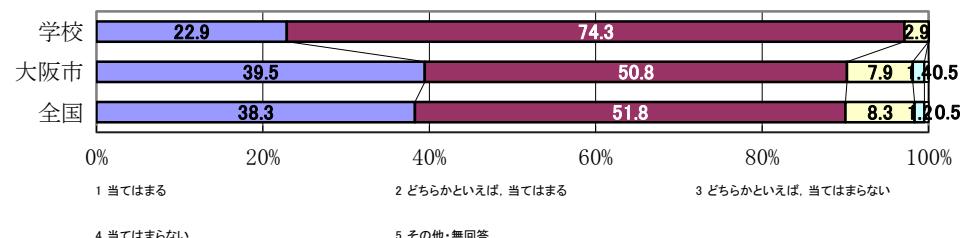
10

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



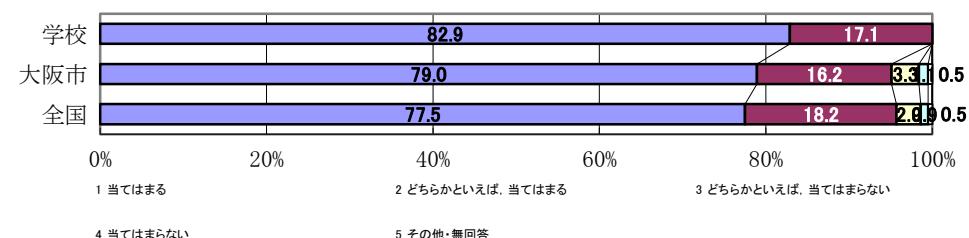
12

人が困っているときは、進んで助けていますか



13

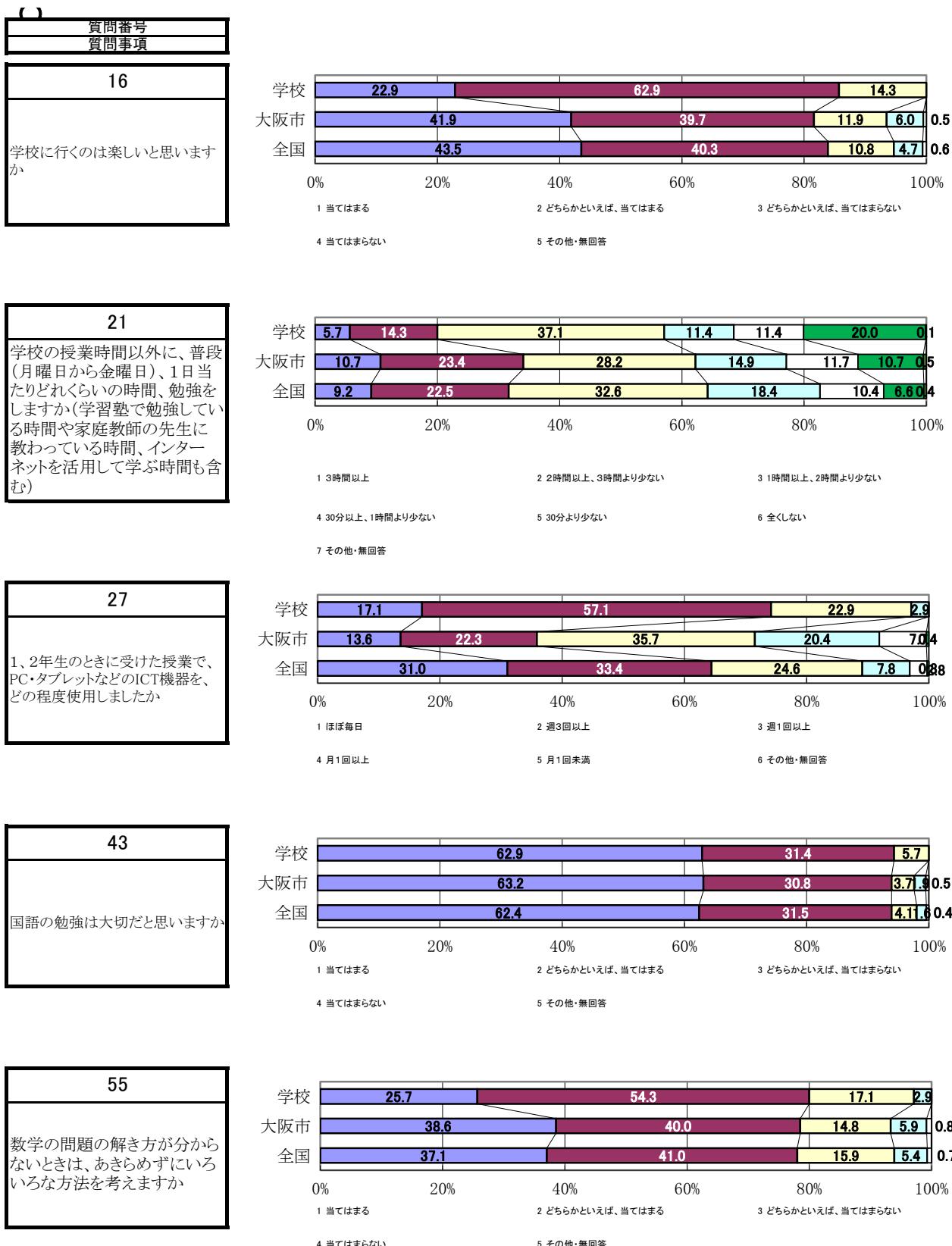
いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



## 令和6年度 木津中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

### 生徒質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8



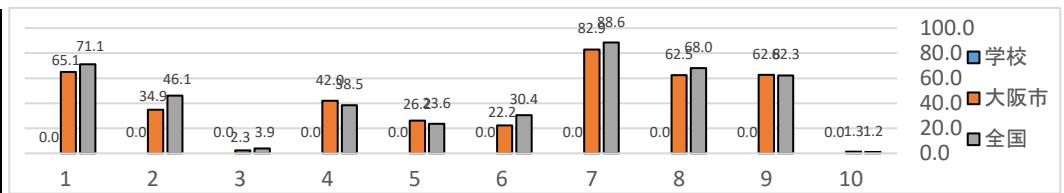
## 令和6年度 木津中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

### 生徒質問より (26)

質問番号
質問事項

26

放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか(複数選択)



1 学校の部活動に参加している

2 家で勉強や読書をしている

地域の活動に参加している(地域学  
校協働本部や地域住民などによる  
学習・体験プログラムを含む)

4 学習塾など学校や家以外の場所で  
勉強している

5 習い事(スポーツに関する習い事を  
除く)をしている

6 スポーツ(スポーツに関する習い事  
を含む)をしている

7 家でテレビや動画を見たり、ゲーム  
をしたり、SNSを利用したりしている

8 家族と過ごしている

9 友達と遊んでいる

10 1~9に当てはまるものがない

## 令和6年度 木津中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

### 学校質問より

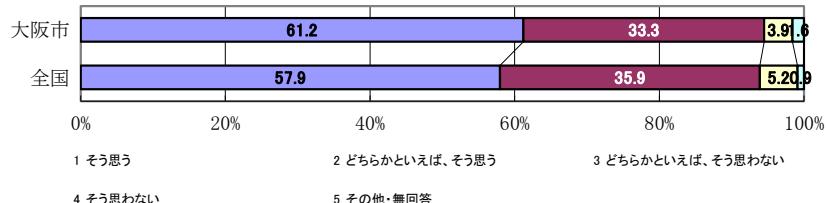
■1 ■2 ■3 ■4 ■5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

#### ○中学生チャレンジテスト 質問事項

7

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち込んでいると思いますか

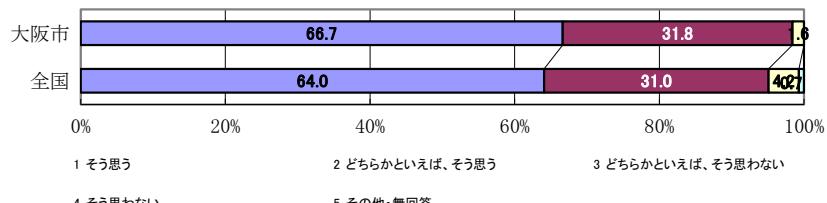
#### 学校 「そう思う」を選択



8

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、生徒が相談したい時に相談できる体制となっていますか

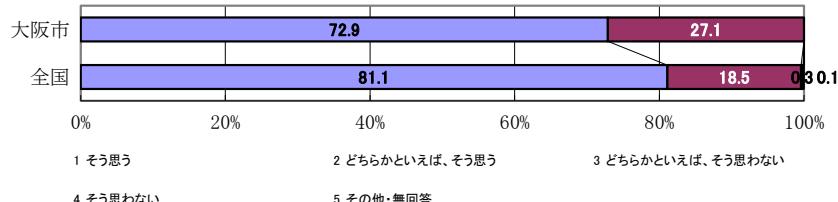
#### 学校 「そう思う」を選択



21

各生徒の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしていますか

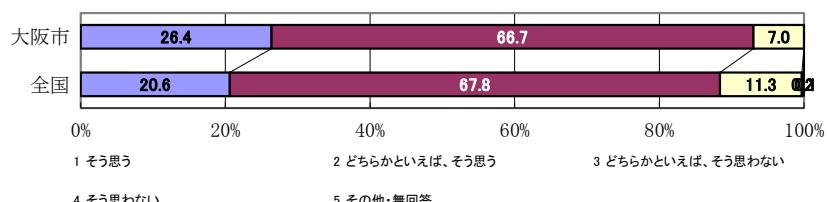
#### 学校 「そう思う」を選択



25

調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

#### 学校 「そう思う」を選択



32

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか

#### 学校 「よく行った」を選択

